

麻生区役所太陽光発電所から自然エネルギーを普及させるために

おひさまだより

発行 麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会 2011年3月 vol.22

地球が危ない！進む地球の温暖化

～私たちに何ができるか～

2010あさお自然エネルギー学校の記録

昨年10月名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）の話題をメインに関心の高い生物多様性と自然エネルギーを取り上げ2回の講演会を実施し又終了後は屋上見学会や意見交換会で大いに盛り上がりました。

2回の開催で58名の市民の皆様に参加して頂き地球温暖化のメカニズムの理解にお役に立てたと思います。

目次	
地球温暖化と生物多様性	1
地球温暖化防止と自然エネルギー	2
「ミニおひさまと遊ぼう in 新ゆりグリーンプラザ商店会」	2
バス見学会	3
第29回あさお区民まつりに出展	4
川崎市地球温暖化防止活動 推進センター	4
編集後記	4

第1回—「地球温暖化と生物多様性」

平成22年11月13日（土）

講師：武生雅明氏 東京農業大学准教授

ライフワークにされているボルネオ島（東マレーシア）の海外出張から昨日帰国し、美しい写真を見せながら現在進行している熱帯林の現状とその保全がいかに難しく又地球温暖化が進む本当の姿を熱く以下ように語られました。

1. 地球温暖化が進んでいる姿を、森林破壊が進んでいる面から解りやすく説明された。特に、生物多様性のホットスポットである熱帯地域において森林の減少が進んでいる。
2. 世界で最も美しい森の一つと謳われたキナバル山の熱帯山地林は切り開かれキャベツ畑になった。そのキャベツは日本の食卓に提供されている。
3. 地球の温度はこの100年で0.6度上昇し後100年ほっておくと2度上昇して、経験しなかった現象に直面する。
4. 太陽光発電を中心とする自然エネルギーの普及の速度を速め森林保全と力を合わせてこの美しい地球を守りたいものです。
5. 森林保全の推進に「低インパクト伐採法」や「森林認証制度」の普及で「環境もコスト」の意識を向上させたい。



武生 雅明（たきゅうまさあき）
東京農業大学准教授

森林総合科学科・森林生態学研究室で
樹木や植物を研究する若手科学者

最近話題のクマやイノシシ、シカ、サルなどの野生動物と人間の接触も森のまわりの草地が従来のように維持管理されていない状態にあるためと指摘された。

第2回「地球温暖化防止と自然エネルギー」 平成22年12月12日(日)

講師：太田猛彦氏 東京大学名誉教授



太田 猛彦 (おおたけひこ)
 東京大学名誉教授
 現在かわさき市民アカデミー「環境とみどり」にてコーディネータを担当
 専門は森林水分子学・砂防工学・森林環境学。

「地球環境問題」・「土地利用の問題」・「地下資源利用の問題」が地球温暖化の問題であり、生物多様性の減少を招いた主たる原因です。

それでは今までにどんな地球温暖化対策が取られてきたのでしょうか、世界では①地球サミット②気候変動枠組条約③京都議定書④IPCC 第4次評価報告書⑤低炭素社会⑥CO₂の25%削減⑦COP16：京都議定書以降を次回に先送り等。

それでは地球温暖化に結び付く現代社会のメカニズムはどうなっているのでしょうか？豊かになった私たちはそれが地下資源依存社会よりもたらされたのに気が付きませんでした。

そこで原点に戻って地球環境史のお話を少しいたしましょう、地球も惑星の一つです、私たちは薄っぺらな地球の表面の狭い空間で活動しているのです。

たまたま「地球は適当な大きさで、太陽から適当な距離で、太陽の成長と地球大気の変化バランス、常に液体の水が存在した」惑星地球が幸運であった。

地下資源は人類が活動する地球表面の現環境が形成される過程で地球表面から地下に埋め込まれた物質です。そうすることで現在の地表の環境・生物進化、しいては人類の出現を可能にしたのではないのでしょうか。人類はこれらの物質が地表から取り払われた

ことに感謝すべきなのに、再び地上に戻して地球環境を破壊しているのです。

私たちは持続可能な社会「真の循環型社会」を求めて再び現太陽光エネルギーの産物を使うべきで、自然エネルギーの利用・バイオマスの利用を促進するべきです。これによりバランスが取れた社会が再形成されるのです。

2010年は国際生物多様性年でしたが、今年には国際森林年、さらに来年2012年には地球温暖化対策の国際的ルールを定めた京都議定書の第一約束期間の最後の年を迎えます。環境保全の機運は今年も継続され私達の活動にも力が入ります。

(友政一幸 記)

「ミニおひさまと遊ぼう in 新ゆりグリーンプラザ商店会」 平成22年12月19日



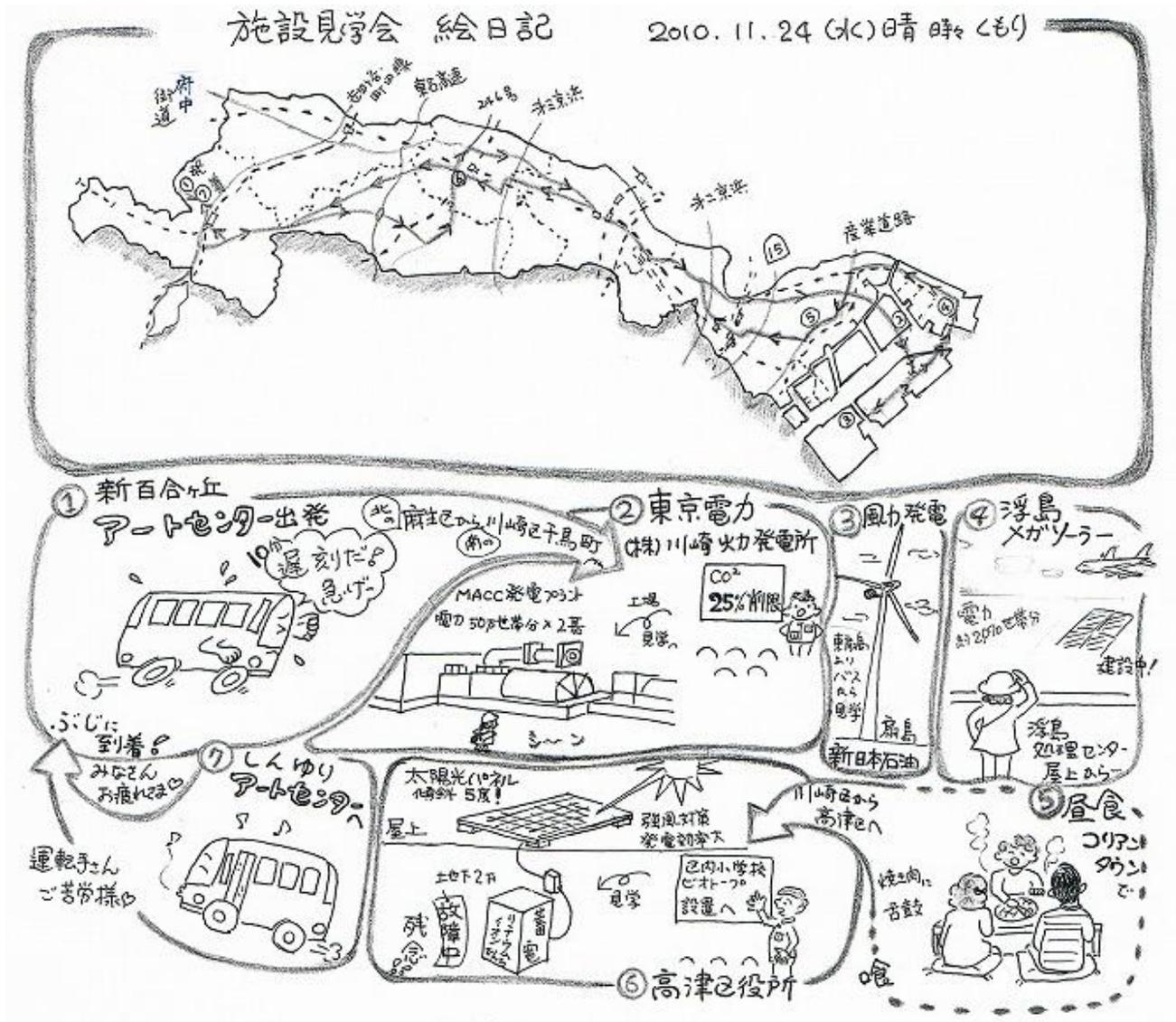
当日は、時々雲におひさまが隠れる場面もありましたが、親ピカ1台・キラピカ2台・サンオープン2台は大活躍で、焼芋・焼ソバ・目玉焼・ラスクと次々と出来、試食されたお客様は大喜びでした。おもちゃは少々ご機嫌斜めでしたが、全体としては「笑顔いっぱい」の結果でした。

印象に残ったのは、「百聞は一見に如かず」という思いが多数の方達から感じられ、そこに会話が生まれコミュニティが出来る場面が見てとれた事です。太陽光の力で動く「花時計」がきっかけとなって、皆が明るく元気で助け合える商店街のイメージアップにつながるのではとの期待で胸が躍りました。

(宮河悦子 記)

2010「次世代エネルギー施設バス見学会」

天気も良く、道路も比較的スムーズに走行でき、予定どおり行いました。



(小松原洋子 作)

見学場所

- ①東京電力（株）川崎火力発電所
映像による概要説明と見学&記念撮影
- ②扇島風力発電所（車窓より）
- ③浮島処理センター屋上よりメガソーラー建設現場展望
- ④高津区役所（エコシティたかつとソーラーシステム）

当日参加者32名



第29回あさお区民まつりに出展

平成22年10月10日(日)

あさお区民まつりは、前日の雨模様の天気は開催時刻には晴れ間も見られるまで回復して、特に私たち自然エネルギーを愛する当事者にとっては何よりの贈り物となりました。展示物は、太陽光発電で動く電動おもちゃ「シンバル・モンキー、トーマス機関車」など、太陽熱調理器「パラボラ型の『キラピカ』とソーラーオーブン」が並び、自然エネルギーの電気でも点灯されたLED電飾の飾り付けでブースを彩りました。

今回はさらに、太陽熱利用の本命である太陽熱温水器の展示と、近頃話題に上るスマートグリッドの構築のために大きな役割をになうと考えられている小型大容量の蓄電池「リチウムイオン電池」を展示説明する事にしました。

太陽熱温水器と聞くと、「過去の遺物」と思われがちですが、どうしてどうして「捨てたもの」でなく、設置費用は少なく、エネルギー効率の点から言えば太陽光発電よりも少なめに見ても2倍以上、3倍位も高い。しかも家庭で消費されるエネルギーは熱・光・動力ほかのうち熱としての利用一冬・夏の暖・冷房、給湯、炊事などが一番多いのです。

リチウムイオン電池は最近では電気自動車で大分なじみが出てきましたので、ご存知の方も多くなってきたと思いますが、電気自動車が将来普及すると、これを単に移動手段として使用するだけでなく、家庭の電気系統に繋いで電力量の調整に使う構想が考えられています。特に自然エネルギーが電力供給の大きな部分を占める時代には、このような機能がどうしても必要になると考えられています。(吉田利敦 記)



CCかわさき エコ暮らし 持続可能な社会に向けて

CCかわさき交流コーナー 川崎市地球温暖化防止活動推進センター

上記の説明紹介のため、2月2日麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会に川崎市環境局地球環境推進室 深堀係長および川崎市地球温暖化防止推進活動センター 竹井センター長が見えました。深堀さんは炭酸ガス排出を減らすため、I 低炭素；省エネ行動、エコ移動、地産地消、自然エネルギーの活用 II 資源循環；ミックスペーパー・プラスチック容器などの分別収集、3R チャレンジ III 自然共生；植樹、生物多様性への配慮などを取組んで行くとの意気込みが述べられた。



竹井さんからは川崎市地球温暖化防止の推進拠点として、溝の口・ノクティプラザ2(マルイ)11階の高津市民館内エレベータ前に「CCかわさき交流コーナー」が1月14日開設され、様々な団体と連携し、市民の相談、情報交流や発信などに対応して行きたいとの抱負が話されました。開館は火曜～日曜(月曜休み)9時30分～17時30分

編集後記

「ミニおひさまと遊ぼう in 新ゆりグリーンプラザ商店会」は神奈川新聞と東京新聞の翌日の12月20日の朝刊に好意的な記事が掲載されました。また、展示のお隣の「たまご屋」さんのオーナーの弟さんが「親ピカ」の発明者との話しに、実行委員は運命的なものを感じたそうです。

3月12日(土)午後区役所ロビーでの「おひさまコンサート」はこれからを担う子ども達とのコラボです。また、区役所広場では電気自動車リーフ・アイミーブの展示がされます。このような記念の催しで、新たな展開になる事が期待されます。(児嶋脩 記)

発行	: 麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会 (委員長 飯田和子)
編集担当	: 児嶋・瀨瀬・小松原・河野
問い合わせ先	: 麻生区役所地域振興課 川崎市麻生区万福寺 1-5-1 Tel044-965-5116 Fax 044-965-5201
発行日	: 2011年3月5日